



# ベースギターを片手に、 ことばの神髄を求める、 英米語学科の気さくなあんちゃん

瀧田 健介 准教授

## ■ 自己紹介

私の専門は理論言語学です。理論言語学は、英語や日本語といった個別の言語がどのような性質をもっているかを詳細に研究し、さらにそれらの個別言語に共通する一般的な原理を深く追及することによって、人間だけが持つ「言語」という能力の本質を解明する学問分野です。私の担当する「比較言語研究」や「英米語学科ゼミ」では、この理論言語学という一般にはあまりなじみのない学問分野が、いかに好奇心を掻き立てられるものであるかを伝えられるよう奮闘しています。

また、私自身はここ数年「省略」と呼ばれる現象に特に興味を持って研究しています。例えば、「何を食べたの」と聞かれて、「カレーを大盛りで食べた」という意味で単に「カレーを大盛りで」と答えることができます。どうやら、「食べた」という部分が最初の質問にあるため、その返答ではその部分を省略できるようです。では同じ質問に対して「何も」と答えたらどうでしょう。この場合答えた内容は「何も食べた」ではなく、「何も食べなかった」でなければなりません。しかし、「食べなかった」という部分は最初の質問には存在していません。また、「食べなかった」という部分が自由に省略できるなら、同じ質問に対して「カレーしか食べなかった」という意味で「カレーしか」と答えられてもよさそうなものですが、この返答は、非常に不自然に感じられます。なぜなのでしょう。このような「なぜ」を、一緒に考えてみませんか。